

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（5月定例会）会議録
開催日時	平成27年5月18日（月曜日）午後2時から4時まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、内田副議長、川崎委員、木下委員、操野委員、沼本委員、服部委員、原委員、古家委員、森田委員、矢野委員、 事務局：岡本課長、公民館長、図書館長、岡本係長、神田主査
議題	議題1 今後の活動について 議題2 社会教育関係団体補助金について 議題3 その他
配布資料	資料1 平成27年度西東京市社会教育関係団体に対する補助金事務取扱要領（案） 資料2 平成27年度西東京市公民館事業計画 資料3 平成27年度図書館事業計画
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（事務局より報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育課の新体制について 5月1日付の組織改正によって、これまで社会教育係と地域連携係であったところ地域連携係を包括することになり、社会教育課は社会教育係と文化財係となった。 ・平成27年4月定例会議の会議録について承認する。 <p>議題1 今後の活動について （公民館館長、図書館長より、平成27年度事業について報告。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館長より、配布資料2「平成27年度西東京市公民館事業計画」に沿って説明。 ・図書館長より、配布資料3「平成27年度図書館事業計画」に沿って説明。 <p>「主な質疑応答・意見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画について <p>○委員： 今回の組織改正で社会教育課は社会教育係と文化財係になったが、公民館、図書館の組織体制は変わらないのか。</p> <p>○図書館長： 図書館は従来通りである。</p>	

○公民館長：

公民館も変わりはない。

○委員：

図書館と図書館の事業計画について、前年度と今年度で違う点があるのか。

図書館長：

「利用者と情報の安全管理」として、利用者データの更新作業を行う。また、「ハンデイクリップサービスの推進」としては、これまでの視覚障害者の方々に加えて、図書館を利用することが困難な方ということで、多文化・多言語サービスについても検討を進めた。

○公民館長：

基本的には前年度通りだが、利用者懇談会の充実を考えている。利用者懇談会は、地域の貴重な意見を聞く場である。利用者懇談会の活性化を図り、市民がどのような学習を望んでいるのかを把握し、また、公民館がどのような状況にあるのかを市民や利用者に丁寧に伝えていきたいと思う。

○委員：

公民館の重点事業として、「地域人材の発掘と支援（人材）」とあるが、公民館での相互学習の成果を地域で活かせるよう長期的視点を持って支援することは大事だと思う。そのための具体的な施策についてお聞きしたい。

公民館長：

公民館の講座や行事を通じて学習の場を提供する中で地域の人材を発掘し、地域の学習活動につながるように、公民館職員が支援をしている。最近では、商工会祭りにも公民館の学習団体が参加し、地域人材の発掘と活躍の場についても探っている。

○委員：

公民館の講座や活動に端を発した団体が、自分たちが知識を得たことで満足するだけでなく、地域の中で他の方たちに、学んだことを伝えていくという知の循環が、促進されていくことが大切だと思う。

○委員：

最近、公民館講座から誕生した団体が、次に伝え、地域に広げていくといった動きが少なくなったように思う。

○委員：

最近、公民館講座から発足した団体も、関わった職員の異動により公民館講座の当初の主旨と関係ない活動になっていくようで、残念である。公民館職員の継続的な支援が必要だと思う。

○委員：

公民館講座を契機とした仲間づくりや地域づくりが大切だということだろう。

○委員：

「市民の読書活動の支援」という中に、書評会のような取り組みも入るのか。

○図書館長：

入ります。図書館は相談があった場合には、資料提供などの支援を行っている。

○委員：

西東京市の図書館サービスは大変良い。わからないこともすぐに丁寧に調べて、思った以上の資料を提供していただき、とても感謝している。

委員：

市民が読書会をやりたいといった場合の資料も、準備できるのか。

○図書館長：

西東京市の場合蔵書が80万冊ほどあるので用意できると思う。会場についても相談に応じる。こういったことも読書支援として行っている。

・講座の地域性について

委員：

公民館講座の企画の地域性と普遍性についてお聞きしたい。公民館の講座内容は各館ごとに地域課題に対応することも必要だが、行きたい講座があってもその公民館が遠くて利用できないという市民もいると思う。

公民館長：

各館では、利用者の声を聴いたうえで事業を企画している。その地域で望まれている事業内容を企画することが基本だと思っているが、講座の実施にあたっては、企画書を公民館運営審議会に諮り、審議会からの意見も踏まえ、公民館全体として内容を決定している。

委員：

公民館事業には、社会の要請に対応した学習課題への取組も求められていると思う。内容によっては、一部の館だけではなく、公民館全体でバランスよく実施するなど配慮していただければと思う。

・中央館の機能について

委員：

公民館も中央館と分館、図書館も中央図書館と地域館があるが、それぞれの役割はどういうものか。

図書館長：

図書館では、資料を全域に平等に届けられるよう、図書館のネットワークを構築し、ど

こでも誰でも図書館サービスを利用できる仕組み作りを目指している。そのための運営体制として、中央図書館が、地域館を統括し、資料も地域館より専門的なものに対応し、レファレンスなども地域館で回答出来ないものは中央館で対応するといった中核的役割を果たしている。

○公民館長：

公民館では柳沢公民館が中央館となっている。公民館運営審議会の運営や、庶務的な事務、予算管理や文書管理などを中央館が担当している。今後は、さらに中央館機能を生かした事業展開を目指して調整を進めていきたいと考えている。

委員：

公民館が地域のニーズに応えていこうということは必要だが、中央公民館の機能として、全市的に主催した方が良いという講座について調整し、どこの公民館でも質の高い講座が開催されるようなシステムが出来るといいと思う。各館独立方式ということもあるが、高齢や子ども連れの人には近くの公民館にしかいけず、また公民館がない地域に住んでいる市民もいる。市内の公民館がそれぞれ違うシステムではなく、西東京市の公民館はこうだと見えるものがあるとよいと思っていたので、これからの中央館の役割を聞いて安心した。

・資料提供について

○委員：

図書館は、利用率などの実績報告資料があると思うが、公民館はどうか。

事務局：

公民館と図書館の実績については両館ともまとめている。そのほか、事務報告や事業点検評価など実績に関わる資料が作成されている。

○図書館長：

図書館事業評価は、図書館のホームページで公開している。

○委員：

私たちが会議を行う上では、公民館、図書館が取り組もうとしていることや課題など、現状を知ることが大切だろう。図書館、公民館の状況を把握出来る資料があるといいと思う。

○委員：

今年度西東京市の社会教育委員は、東京都市町村連絡協議会の会長市となる。テーマは「学び、行動する市民が創造する循環型の地域学習社会を目指して」だが、公民館、図書館がこのテーマに関連してどういう活動をしているか知っておきたい。

委員：

公民館運営審議会では講座の企画書や主催講座の評価や事業報告といった資料が配布されている。そういった資料を社会教育委員の会議にも配布していただけると、講座につい

ての理解が深まると思う。

事務局：

資料提供については、検討します。

・公民館・図書館の活動評価について

委員：

公民館の利用率だけが公民館の評価や価値に繋がるわけではないと思うが、数字は目に見えるので、ある意味わかりやすい。社会教育施設の評価指数については、何がいいのか、公民館や図書館活動がわかるものがあると良いと思う。

委員：

館により違いがあるだろうが、公民館を盛り上げるには、趣味的な事業だけではなく、バランスよく、主催事業として公民館ならではの手ごたえのあるテーマの講座を提供しているということがわかるとよいと思う。

委員：

講座の参加人数が少なくてもこういう学習が大事な事であり、今学ばなければいけないことを中心に事業をやっていくことも大切ではないか。

委員：

公民館や図書館の活動は、利用率や講座が好評だということだけではなく、市民を育てる視点が重要だと思う。こうした視点に基づいた事業評価も大切だろう。

・防災拠点としての取組について

○委員：

公民館の重点事業の中に「共助につながる防災拠点づくり」があるが、実際、防災拠点としてどのような状況か。

○公民館長：

公民館には防災拠点として防災グッズが取り揃えてある。今後、実際に災害が起きた時の受け入れ施設として公民館がどのくらい機能できるか、防災訓練を通して研究、検討を重ね、複合施設である図書館とも連携し、災害時の備えをしていかなければいけないと考えている。

委員：

災害時には、地域住民や近隣と連携していく事が必要だと思う。

○公民館長：

公民館は、都営住宅の1階部分に併設されている施設が多い。そのため、防災訓練は都営住宅の自治会と連携して実施している。災害時の受け入れ態勢としては、危機管理室と連携し、防災グッズのチェックなど、避難時の受け入れ施設としての機能の充実を図っていきたいと考えている。

○委員：

私が住んでいる所には、避難先として、公民館や小学校だけでなく、公園などもある。地域にいろいろある避難所に関わる方々の意見交換の場や総合的に調整するような組織といったものがあるのだろうか。

事務局：

西東京市では防災計画が定められており、各避難所の人数が想定されている。しかし、決められた避難所に行かなければいけないという定めはなく、小学校と中学校の避難所の対象地域が重複している地域もあり、連携の実態はあるように聞いている。

○委員：

地域の人たちは自由に各避難所へ行くので、そのためにも、地域の連携が大事だと感じている。

○委員：

小学校などは職員が沢山いて、組織的に動けると思うが、公民館は職員が少なく、その時に応援に来られる職員も少ないだろう。だからこそ、混乱がないような仕組み作りが大切だと思う。

○図書館長：

今年度、危機管理室の方で防災アプリの作成を行うと聞いている。地域防災計画に基づいて、いろいろな手立てを考えてはいるが、防災は自治体の取組だけでやることではないので、地域の方々のお知恵を借りて努力していきたい。

・その他

○委員：

図書館の近隣市との連携はどういった状況かお聞きしたい。

図書館長：

図書館では、昔から多摩六都として、東久留米市、小平市、東村山市、清瀬市と図書館の利用カードを共通化にする等様々な連携をしている。また、武蔵野市、三鷹市、小金井市とも協定を結んでいる。練馬区の場合は、保谷市の頃支援をしていただいた経緯もあり、その後、保谷駅前に図書館が出来た時に申し入れをして協力の手続きをしてきた。

○議長：

両館長、本日はありがとうございました。今後また、教えて頂くことが多々あると思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

議題2 社会教育関係団体補助金について

(事務局より、配布資料1に沿って、今年度の補助金交付の考え方及び手続き等について説明。)

・今年度予算は、昨年度同様40万円。

- ・今年度の補助金の交付については、基本的に前年度どおりの考え方で行いたい。
- ・今年度も説明会を開催せず、相談については、随時個別に丁寧に対応する。

○委員：

26年度は申請団体も増え、予算を超える申請額となった。今年度もその傾向が、維持できるといいと思う。

- ・審議の結果、「平成27年度西東京市社会教育関係団体に対する補助金事務取扱要領(案)」について事務局の提案どおり了承する。

議題3 その他

(1) 市民会館・中央図書館・田無公民館合築複合化整備について

(事務局より、市民会館・中央図書館・田無公民館合築複合化整備に関わる委員の選出について説明。)

- ・文化振興課より、合築複合化基本プラン策定懇談会へ委員2名推薦の打診があった。
- ・正式な依頼は後日。
- ・内容は、新たな施設のコンセプト、基本的なプランの検討。
- ・第1回会議は7月を想定、会議開催回数は5回、6回程度と聞いている。
- ・皆様から、2名の委員を推薦いただきたい。

(決定)

- ・服部委員と沼本委員を社会教育委員の会議から推薦する。

(2) 社連協関係の今後の予定

(事務局より今後の予定について説明)

- ・5月21日(木曜日)の全国社会教育委員連合の総会に須永会長と事務局出席予定。
- ・5月25日(月曜日)の関東甲信越静社会教育委員連絡協議会の理事会に須永議長と事務局出席。
- ・5月28日(木曜日)の午後2時からの第1回役員会・第1回拡大役員会に須永会長と会計の内田委員が出席予定。

○議長：

役員会では、今年度のブロック研修会の予定が報告される。会長市として27年度の交流大会については、2月の理事会に案としてブロック研修会報告と連動したパネルディスカッションを提案したが、7月の理事会には実施要項を提出する必要がある。今度の役員会ではブロック研修会の内容なども話し合われると思う。交流大会とブロック研修会をどう連動させていけばよいかなどご意見をお聞かせいただきたい。

○委員：

これまでの交流大会に参加してみて、基調講演とグループ討議がマッチングしていないと、内容そのものが有意義なものにならないと感じた。今回も綿密に計画してプロセスを踏まないと同じことになるのではないかと思う。今回のパネルディスカッションでテーマを参加者に浸透させて進めていくためには、一つの方法としテーマの意図がよくわかっている西東京市の委員がパネラーになることも考えられるのではないか。

○委員：

いろいろなパネルディスカッションに参加したが、進行役の役割が重要だと思う。それぞれパネラーが話をしてフロアとの質疑応答となるが、西東京市の委員だけがパネラーだと西東京市のことだけになってしまうのではないか。司会は西東京が担当しても、参加した各市の委員にもパネラーに加わってもらって発言していただきたい。

○委員：

循環型社会の創造に向けては、他市にも良い活動事例があるかもしれない。

○委員：

パネラーはそれぞれのブロックの代表者になってもらわないと、統一テーマとブロック研修会の結びつきがないのではないか。

○委員：

交流大会をこうやりたいので、ブロック研修会のテーマをこうしていただきたいとはいえないだろう。都市社連協の交流大会とブロック研修会の連動については、統一テーマを念頭においてそれぞれのブロック研修会を企画していただくしかないと思う。

○議長：

今度の拡大役員会で、各ブロックの研修会の日程を出来る限り調整し、所属ブロック以外の社会教育委員の方の参加も受け入れて頂くよう提案したいと考えている。社会教育委員にとっても、研修の機会が増えて、他のブロックでは何をやっているのか、勉強が出来ると思う。会長市としても、各ブロックの研修会の実態を把握して臨みたいと思う。それぞれのブロック研修会で、核となって議論された部分を把握していないと、各ブロックからパネラーの方に出ていただいても、対応しきれないと思う。

○委員：

これまでの交流大会だとテーマはテーマで別にあり、それぞれのブロックの研修会報告をただけだった。西東京市が会長市になった今年度は、テーマに沿って社会教育の全体のあり方をみんなで考える良い機会になればと思う。

○委員：

それぞれのブロックがテーマに沿ったような内容の研修活動をして報告してもらい、各ブロック研修の中から見えてきたものを踏まえながら、パネラーにはテーマに沿った発言をしていただくという方向で良いのではないか。やはり、各ブロックの代表に出てきていただき、多様な実践を今回のテーマに結びつけてもらいたい。そうすることで、交流大会でいろいろな意見が出て、広がりも出てくると思う。

○委員：
その点は、議長から役員会で説明をしていただくことが大事だろう。

議長：
コーディネーターは、どうでしょうか。

○委員：
岩崎委員にコーディネーターをお願いできればいいと思う。

○議長：
循環型の地域学習社会の考え方については、岩崎委員にアドバイスいただいております、基本的なことを深く理解されているのでコーディネーターとして適任だと思ふ。

○事務局：
各市の社会教育委員には多くの人材がいらっしゃるの、役員会とも調整しながら、人選出来ればと思ふ。

○議長：
交流大会でのパネルディスカッションは、都市社連協としては新しい取組である。各ブロックの代表に出てもらふことは、大変大きな意味があると思ふ。都市社連協の全体としてのパネルディスカッションとなるようにするには、各ブロックからパネラーが出てもらふことが良いと思ふので、皆さんからいただいたご意見を踏まえて、拡大役員会に臨みたいと思ふ。

○議長：
以上で本日の社会教育委員の会議（5月定例会）は終了する。

次回会議 平成27年6月15日（月曜日）午後2時から

以上